

慈雲

10号

2009/9

真宗大谷派 慈雲山 瑞蓮寺

慈雲会

〒604-8214

京都市中京区新町通蛸薬師下る

百足屋町375番地

TEL/FAX (075)221-4616

zui renji@nifty.com

SinsyuuOotaniha

JiunzanZui renji

Jiunkai

收執父王
頻婆娑羅
幽閉置於
七重室内

【『観経』の言葉】

「收執父王 頻婆娑
羅、幽閉置於七重
室内。」

（父の王頻婆娑羅を
收執し、幽閉して七重の
室内に置く。）

今回は、阿闍世王子が
ダイバダッタのたくら
みに乗り、父である王頻
婆娑羅を捕らえて幽閉
してしまつたところです。

「王舎城の悲劇」の始
まりです。

王子を唆した悪人だ
あるダイバ、そのかさ
れた心弱き王子阿闍世、
善王といわれるが、過去
に過ちをもつ頻婆娑羅。
私たちは果たして、阿闍
世、提婆、頻婆娑羅のこ
とを非難できるのか、そ
んなことも考えさせら
れます。

九月十八日（金）午前九時より

仏具のお磨きをいたします

九月二十三日（祝）

秋の彼岸会法要を勤修します

午後一時より納骨堂を開きます

二時 お勤め

三時 法話（住職）

四時 お齋

十一月六日（金）午前九時より

仏具のお磨きをいたします

十一月八日（日）午後一時より

報恩講を勤修します

引き続き帰敬式を執行します

別紙にて帰敬式の要項をいらんくだ
さい

人間が「生きる」ことはそれだけで求道である。朝起きてからすることひとつひとつが実は求道である。朝起きたときから人間は修行している。何故なら人はみな思い通りにいかないところを生きているからである。これは老若男女、善人悪人の別はない。修行してその先に何か到達点があるのではなく、生きること自体が道を求めていることになる。求めている自覚のない人も、その人ははからずとも自ずから求め求めて生きているのではないだろうか。

求めているがゆえに反抗もし、時にはボイコットもする。それは、歩んでいるからであり、歩んでいない人は壁にあたることもない。

例えば、子供にすれば、今から勉強しようとする時にお母さんに「洗濯物取り入れて」とか言われる。そこにもう衝突がある。人生は衝突の連続であり、その衝突に腹を立てたりもするが、時には自分の思いを抑えて助け合ったりということがある。衝突の種は尽きることなく私たちに降りかかってくる。

それだけでもう充分求道していると言える。

そうした中で「人生とは」「人間とは」「自分とは」など、ひとつひとつ気付いていくのである。自分の身の上、また身のまわりに起こったことは何ひとつ unnecessary ことは無いのである。

~~~~~

【編集後記】

以前よりお願いしていました掛け軸を入れる袋が、皆様のお蔭でだいぶ出来上がりました。お忙しい中、お手伝いいただきありがとうございます。まだもう少し残っておりますので引き続きお願いいたします。

親鸞聖人750回忌に向けて、「正信偈真四句目下」のお勤めの稽古をこれから始めます。

慈雲会からお勤めの本とCDを秋のお彼岸法要の場で配布いたしますので、みなさまお参りください。